

令和6年度第2回高次脳機能障害者相談支援研修会概要報告

1 目的

区市町村等地域関係機関及び関係医療機関等において、高次脳機能障害者の相談支援業務に携わる職員に対し、高次脳機能障害及び支援方法について、講演を通じて情報提供をすることにより、相談支援の実務の向上を図ることを目的とする。

2 日時：令和6年10月25日（金）

午後1時30分から午後4時45分まで

3 場所：東京都社会福祉保健医療研修センター 講堂

4 申込者：204名 参加者186名（参加率91%）

5 内容

テーマ：高次脳機能障害の「本人にとっての気づき・理解」とは～

気づかせようとするのは必要？医療・福祉・介護ではどうすればいいのか～

講 師：第1部 講演 東京慈恵会医科大学付属第三病院リハビリテーション科

診療医長 羽田 拓也氏

第2部 トークセッション コンフィデンス日本橋 佐藤 栄司氏

コンフィデンス日本橋元利用者 岡庭 順一氏 一ノ瀬 康彦氏

高次脳機能障害者支援担当 職員

6 アンケート結果より 回答数186件（回収率90.3%）

第1部 講演について

(大いに参考になった121 参考になった43 普通3 空欄1)

- 寄り添うことの大切さを改めて考えた
- 医療の視点から接し方などの話が聞けて良かった
- 「言って無理やりわからせる」ではなく、経験等を通じて自ら気づく（認識する）ことが大事。
- "気づけない"はみんな当たり前という言葉、支援者は心に留めておくべきと思いました。

第2部 トークセッションについて

(大いに参考になった116 参考になった45 普通4 空欄3)

- 自分自身の支援の気づきの場となった
- 評価とは何かを考えさせられた
- 当事者の方の気持ちや思いを聞けて良かった
- 型にはめて欲しくない、障害者という言葉が嫌い…などの言葉が印象的だった

7 その他 登壇者から

羽田先生：高次脳機能障害の方を支援する皆様には大変難しいテーマだったと思う

第2部を中心に私としても大変勉強になる会だった

佐藤氏：元利用者二人の個性ある発信が表現出来、参加してくださった方々へ思いが伝わり、良かった

都センターの進行＆サポートのおかげで助かった

私自身も支援に対して改めて考えて発信する良い経験となった

岡庭氏：本当にあの日は時間が過ぎるのが早くて驚いている。楽しんでやれた

一ノ瀬氏：好き勝手に話をさせてもらい、楽しく講演をさせていただいた。また何かあれば、お手伝いできればと思う

参加職種内訳

職種（重複有）	n=171
相談支援専門員	24
相談支援員	23
PT	19
その他	19
看護師	15
OT	14
ケースワーカー	12
ST	11
MSW	8
職業指導員	7
ケアマネージャー	6
生活支援員	6
就労支援員	4
事務	2
医師	1
心理	0